

令和 5 年 4 月 28 日

令和 4 年度研究開発報告

住所 岡山県岡山市東区西大寺上 1-19-19
管理機関名 学校法人森教育学園
代表者名 森 靖喜

令和 4 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発実施内容を、下記のとおり報告します。

記

1 事業特例校名・類型

学校名 岡山学芸館高等学校
学校長名 森 健太郎
類型 グローカル型

2 令和 4 年度研究開発実施概要

新たな価値創造ができるグローバルリーダー育成にあたり、以下の 4 つの指針を示す。1 つ目は資質として①グローバルマインドの醸成、②メタ認知力の向上、③分析力の向上、④発想力の醸成、⑤行動力・実践力の育成、の 5 つの資質を育む。2 つ目は、提言に留まらない実践活動の必須化により社会に対する主体者意識を育む。3 つ目は、情報、数学などとの教科間連携による文理融合の推進、独自教材の作成とブラッシュアップ、校外連携の強化を通じたカリキュラム改革を行う。4 つ目は社会との協働による「学びの深化プロジェクト」の実施である。取り組んできた課題研究活動を地域・国内・世界レベルにおける様々な社会セクターおよび短中長期留学生と共同した学びの場を作ることで生徒の学びを深化させる。

3 教育課程の特例の活用（□で囲むこと）

- ア 学校設定教科・科目を開設している
 イ 教育課程の特例の活用している

4 コンソーシアムについて

- ①コンソーシアムの構成団体
(1) カリキュラム・アドバイザー
株式会社ベネッセホールディングス 執行役員 藤井 雅徳
(2) 海外交流アドバイザー
三宅 徹生
(3) 地域協働学習実施支援員

(別紙様式5)

岡山市市民協働局 ESD 推進課 岩田 裕久
瀬戸内市総合政策部 企画振興課 仁科 佳菜子
赤磐市総合政策部 政策推進課地域創生班 直原 真弓

(4) 地方自治体関係者 (県市町村関係部局等)

岡山県 知事 伊原木 隆太
岡山市 市長 大森 雅夫
瀬戸内市 市長 武久 顕也
備前市 市長 田原 隆雄
赤磐市 市長 友實 武則

(5) 高等教育機関関係者 (大学等)

岡山大学 学長 榎野 博史
関西大学 学長 芝井 敬司
甲南大学 学長 長坂 悦敬

(6) 教育機関

Porin Suomalaisen Yhteislyseon Lukio (フィンランド)
Sinar Cendekia Islamic School (インドネシア)
Olga Gudynn International School (ルーマニア)
Samdech High School (カンボジア)
Saint Stephen's College (オーストラリア)
備前市立日生中学校

(7) 産業界関係者

岡山県商工会議所連合会 会長 松田 久
NPO法人日本ファンドレイジング協会 代表理事 鷲尾 雅隆
岡山NPOセンター 会長 石原 達也
岡山ESD推進協議会 会長 阿部 宏史

(8) 岡山学芸館高等学校の学校長

(9) 岡山学芸館高等学校の学校設置者

(10) その他、学校法人森教育学園理事長が必要と認める者

②活動日程・活動内容

コロナ禍に伴い一堂に会するコンソーシアム会議の実施は見送り、代わりに各部署へは個別に依頼およびお礼を申し上げた。

以下、課題研究における社会連携授業を下表に記すように実施した。

活動日程	活動内容
2022年8月22日	第1回課題研究連続講座「哲学サマーキャンプ」
2022年11月12日	第2回課題研究連続講座「機長のチームビルディング」
2022年12月16日	第3回課題研究連続講座「心理学」
2023年1月28日	第4回課題研究連続講座「Learn from 企業人」

(別紙様式 5)

5 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
グローバル課題研究Ⅰ		2回	2回	1回		4回	2回	4回	1回	3回	3回	
グローバル課題研究Ⅱ		3回	2回	1回	1回	4回	1回	4回	1回	3回	3回	

(2) 実績の説明

■ グローバル課題研究Ⅰ (1年生)

- ・対象生徒：普通科 13 クラス、英語科 1 クラスの合計 484 名を対象に実施。
- ・教材：本校独自に作成しているが、過年度までの様子とグローバル型への対応のため、今年度は大幅に授業内容を改定した。Society5.0 の実現に向けた AI やビッグデータ、DX など、デジタルを中心とした急速な社会変革に目を向け、アクティブラーニング型の授業を中心に展開し、グローバルマインド（分析力・発想力・行動力・実践力）の育成を図った。
- ・授業概要：上半期は Society5.0 に伴う社会の変化についての紹介や SDG s の概念、異文化理解について意識すべき点などについてグループワークを通して学んでいった。下半期に入り、2 年次のゼミ活動において実践力を発揮するため、アンケートの実施法やデータ分析について講義形式とアクティブラーニング形式の両面で実施した。

■ グローバル課題研究Ⅱ (2年生)

- ・対象生徒：普通科 12 クラス、計 425 名対象に実施。
- ・授業概要：20 のゼミ（自然科学・教育・法律・行政など多岐にわたる）を開講し、担当教員の指導のもと、各々が PBL 形式で課題研究を実施。
- ・社会連携授業：授業外の時間において、高校 1～3 年生を対象として希望制にて実施。ANA の機長を講師としてチーム作りについての講演や、大学教授をお招きして最新のトピックについて講演していただいた。

(3) 研究開発の実施体制について

※高校と地域を繋ぐコーディネーターを配置する場合には、コーディネーターの配置状況及び活動内容について記載してください。

■ 担当教員

グローバル課題研究Ⅰは 14 人体制（英語科 6 人、家庭科 2 人、理科 1 人、社会科 3 人、体育科 2 人）で運営した。授業担当者は基本的に高校 1 年生の HR 担当が担当した。

グローバル課題研究Ⅱは 36 人体制で、1 つのゼミに 1 名ないしは 2 名を配置した。

■ 課題研究Ⅰ

教材については運営部長および運営副部長で開発し、授業担当者へは授業実施 2 日前に会議を設定して授業内容を伝達した。授業は「交渉型コミュニケーション能力」と「協働力」の養成を目的に、すべての授業でアクティブラーニング型のグループワークを導入した。なお、授業担当教員にはファシリテート力の向上を促すことを目的として、授業内容やグループワークの展開についてはアレンジすることを積極的に推奨している。

(別紙様式 5)

■ 課題研究Ⅱ

ゼミ毎に運営を担当教員に一任しているが、学期に数度、全体での会議を実施して進捗状況の確認および各種イベントの告知などを実施した。

(4) 次年度以降の課題及び改善点

■ 課題研究の運営

- ・課題研究Ⅰに関して、1年時で研究手法を学んだ後は、その実践をすぐに行えるよう、現状の隔週2コマ体制から、毎週1コマ体制へと移行し、知識のインプットとアウトプットをより迅速に行えるように改善していったが、高校1年生と高校2年生の学びに解離があったので、よりシームレスに接続できるよう工夫が必要である。
- ・課題研究Ⅱに関して、生徒主体で運営を行うべく、ゼミ長制度の導入を行ったものの、導入1年目ということもあり、まだ生徒主導というよりは教員主導の側面が強いゼミも散見された点は改善点として挙げられる。

■ 授業評価の手法

授業評価ルーブリックを作成し、それを活用することで生徒の活動状況の可視化が可能になったが、その評価についてはまだ統一的な見解はでていない。ルーブリックを用いた評価手法の開発は今後も継続が必要である。

【担当者】

担当課	理事長室	T E L	086-942-3864
氏 名	加藤武史	F A X	086-943-8040
職 名	理事長室長	e-mail	info@gakugeikan.ed.jp